

はじめに

我が国の結核患者数は、緩やかに減少してきてはいるものの、平成24年度の新結核登録患者数は約2万1千人となっており、結核は依然として我が国の主要な感染症となっています。日本の罹患率は先進諸外国と比べて高く、世界の中では「中まん延」の状態であり、引き続き十分な対策が求められています。

本県の患者数も、全国同様これまで緩やかな減少傾向にあり、平成24年は前年に比べ40人減少し、289人となりました。しかし、高齢者の割合が依然として高く、新登録患者に占める70歳以上の割合は73.4%と昨年とほぼ同様であり、全国平均より20ポイントも高い状態が続いています。結核の他に合併症を持った高齢者は診断および治療が難しく、診断が遅れると介護者など周囲に感染させる可能性が高く、医療従事者も結核について意識して注意をする必要があります。また、結核患者の高齢化のほかに、薬が効かない多剤耐性結核菌の出現などの難しい問題も浮上しています。

本県においては、「熊本県結核対策プラン」に目標値を掲げ、結核の発生予防とまん延防止、良質な医療の提供等について、市町村や医療従事者等の関係者と連携しながら取り組んでいるところです。

ここに、平成24年の結核発生動向調査の結果を「熊本県の結核」として取りまとめましたので、御高覧いただき、今後の結核対策の推進に一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年4月

熊本県健康福祉部健康危機管理課長

一 喜美男